

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々のミーティングや毎月の職員会議で法人理念と施設目標を再確認し共有している。施設目標は掲示し常に意識して取り組むよう促している。また異動時はオリエンテーションを行い共有している	各職員のネームプレートの裏や名刺には法人の理念とコンセプトが印刷されており、職員はお互いに共有し日々実践に努めている。事務室にも掲示されており、それらを基に職員は仕事に対する姿勢を自らの言葉として語る事が出来る。理念にそぐわない言動や接遇があれば職員間で話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり定期的にボランティアや介護相談専門員の来訪がある。また施設周辺の散策を行う中で馴染みの関係が出来るよう努めている	区費を納め区の一員として前向きに取り組んでいる。今年度は事業所行事に地域住民に來訪していただき利用者とのふれあいの機会を作ったり、地区行事に利用者や職員が出掛け地域との交流を深めたいと意欲的である。諏訪湖の清掃活動に参加したい旨を運営推進会議で相談し、その結果、市側の仲介で諏訪湖美化活動に参加できる目途が立っている。	利用者が地域で暮らす基盤作りのために運営推進会議の委員の皆様にご協力をいただき、地域の人々との日常的な交流が色々な面で増えていくように取り組んでいただきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今後地域に貢献できるよう地域ボランティア等に参加していく。現在諏訪湖アダプトプログラムに申し込みをしており諏訪湖の美化活動を行う予定		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設での取り組み状況を報告し十分な意見交換を行っている。その内容は職員会議や会議録で周知し今後のサービス向上に活かしている	利用者、家族、区長、介護相談専門員、広域連合職員、市介護福祉課職員等をメンバーに、概ね3ヶ月に一回開催している。開設初年度の平成23年度も定期的に4回実施した。会議ではホームの報告や依頼事項に関してメンバーから助言や地域の情報を頂くなど有意義で双方向的な話し合いが行われている。議事録は詳細に記録されており、毎回、熱心な話し合いが行われていることが窺える。会議の終りには概ねの次回開催予定日を決めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定更新時、運営推進会議等の機会に市の担当者との連携を取っている。介護相談専門員の定期的な来訪により利用者様の暮らしぶりや相談にのっている。また相談内容は専用のノートに記載し把握している	認定更新や区分申請時には市介護保険課窓口を訪ねて相談している。市の介護相談専門員が毎月2回、2名来訪している。市主催の介護相談専門員と入所施設事業所との会議にも出席し意見交換をしている。ボランティアの件では社協のボランティアコーディネーターと連絡を取るなど市内の社会施設、社会的資源とも積極的に連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について法人や施設内で研修を行っている。自由に外へ出る事ができる環境の大切さは理解しているが職員配置、周辺環境を考え入居者の安全確保を考慮し、ご家族の了解を得て現在は玄関の鍵をかけている。今後鍵をかけないケアについて職員間で話し合っていく	身体拘束や行動制限の内容とそれによる弊害を全職員が認識している。現在玄関の施錠に関しては諏訪湖が目の前ということもありリスク回避のため行なうこともあるが、職員の資質向上や開設一年半を過ぎて利用者一人ひとりの様子も分かるようになってきたこともあって開錠について検討していく方向にある。その他、拘束に該当する行為は一切行なわれていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に施設内研修を行い高齢者虐待について理解を深めている。常に尊重する気持ちを持って関わることに努め、日頃の言葉遣いやケアが適切であるか確認している		

グループホーム風薫

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会の参加、成年後見制度や日常生活自立支援事業のチラシなどを用いて学んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退所時は十分な説明を行い、ご家族の不安や疑問点を確認しながら同意を得ている。また改定時は文書等でも通知し不明な点は問い合わせを頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族とは遠慮なく話せる関係と環境作りを努めている。ご家族の面会時には状況の報告をしご家族の想いを聴く機会としている。運営推進会議では意見や要望を自由に発言して頂き運営に活かしている。また意見箱を設置している	家族会は年一回敬老会と合わせて開かれている。家族の来訪時、意見や気づきを気軽に話せるよう職員は雰囲気作りを努め、各利用者ごとのアルバムも整えている。意見箱は設置されているが活用されることもなく家族は口頭で職員に伝えている。毎月、個別に一ヶ月間の健康状態、暮らしぶり、連絡事項、預かり金状況などを写真入で報告しており、家族から様子が分かると喜ばれている。外出や誕生日など日頃のホームでの暮らしを一ヶ月ごとに写真でまとめ玄関に張り家族とのコミュニケーションに役立っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや職員会議等で意見や提案を聞き問題点の明確化や具体的な改善策を話し合っている	管理者は日頃より職員に声を掛け意見や考えを聞くように心がけている。職員会議では運営のこと、利用者のことなど何でも報告し合って決めている。業務で出席できなかった職員には議事録で分かるようになっており、職員は積極的に自分の考えを表している。職員一人ひとり「個人目標」を作成し半期に一度上司と面接している。その際には100項目の接遇チェックシートを自己採点したものも面接の資料となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人目標を設定し年数回の自己評価を行っている。自己評価表にアドバイス等を記載し、やりがいをもち働けるよう努めている。返却時は個人面談を行い悩み等を聞く機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に可能な限り多くの職員が参加できるよう機会を確保している。介護雇用プログラムを利用し働きながら資格を取得する制度を積極的に活用している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月の会議で他事業所と情報交換をし、事例検討を通じて質の向上に取り組んでいる		

グループホーム風薫

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にできるだけご家族とご本人に在所して頂き施設内を見たり、ご本人が困っている事等をお聞きしている。事前面談に身体面や生活面の情報を事前収集し入居後はご本人の訴えを受け止め信頼関係を築く努力をしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に施設内を見て頂くとともに、ご家族の様々な想いに共感している。また入居後の不安や要望などを聴き、その対応についての話し合いをしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の思いをよく聴き、必要としている支援を見極めるよう努めている。当施設ではどのような支援ができるのかを他のサービス利用も含め考えている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ立場、同じ目線に立ち喜びや悲しみ、楽しみ等を共感している。炊事や掃除など一緒に行い支えあう関係作りをしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の生活や身体状況等を毎月のお便りにて報告するとともに面会時にもお伝えしている。また施設内外の行事にお誘いしご家族が関わる場面を作っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出、外泊に制限が無く、来訪しやすい雰囲気作りに努め馴染みの関係が継続されるようにしている。電話の取り次ぎも制限がなく遠方の方との関係も大切にしている	利用前と変わらず地域や馴染みの人との関係が継続できるように取り組んでいる。家族や親戚など身内の来訪以外にも知人、友人の訪問がある。漬物用の大根を友人に連絡して持ってきてもらったり、馴染みの理美容院へ家族と一緒に出かけたり、正月やゴールデンウィークにはお墓参りをかねて外出や外泊する利用者がいる。遠方の親族が形に残したほうが忘れないからと手紙のやりとりを続けるなど様々な方法で人や社会との関係を継続させている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士会話をしている時間を大切にするとともに、その環境作りを行っている。また利用者同士の関わりが持て、人間関係が上手にいくよう声掛けをしている		

グループホーム風薫

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も今までの生活環境や支援が継続されるよう他事業所、ご家族に情報を提供し連携に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	関わりの中での言葉や表情、行動等から思いや希望を汲み取るようにしている。意向の確認が困難な方はご家族などから情報を得て本人の立場に立ちカンファレンス等行っている	利用者の多くは言葉や仕草などで思いや意向を伝えることが出来る。意思表示が難しい利用者には利用前の情報や日頃の様子などを基に皆で話し合い、本人本位に検討している。職員は日々の関わりの中で一人ひとりの思いや意向について関心を持ち把握に努めている。得られた情報は記録に残し職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者やご家族から生活歴や馴染みの暮らし方をお聞きし把握に努めている。他の事業所からも利用時の様子を教えて頂き得た情報はミーティング等を通じ共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを理解し、出来る事や楽しんでいる事等の把握に努め記録やミーティングで共有するよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中でご本人の意見をお聞きしたり、ご家族が面会に見えた際に現状をお伝えし意向を確認し相談しながらケアに反映させている。また主治医とも話し合い計画を作成している	利用当初は1ヶ月単位の暫定プランを作成し、本人が新しい環境に慣れることや一人ひとりに沿ったケア提供などを主とした介護計画が作成されている。各職員は利用者1~2名を担当し原案を作成後関係者が話し合い、個別の介護計画を計画作成担当者が作っている。評価・見直しは3ヶ月毎に行っており、計画が現状にそぐわない場合には新たなものに作り変えている。介護計画作成に関する法人内研修会に参加したり、ホーム内の勉強会も開かれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に身体状況、本人の言葉や様子を記入し勤務開始前に業務日誌も含め確認する事を義務としている。また記録をもとに評価し介護計画の見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者の希望時は買い物や外出等個別の支援を行っている。ご家族との外出、外泊や当施設への宿泊、食事の提供等柔軟なサービスを行っている		

グループホーム風薫

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に広域連合、市役所、介護相談専門員をお呼びし情報交換を行うとともに施設への理解と協力を頂いている。また定期的なボランティアの訪問や訪問理美容を利用している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人とご家族の希望するかかりつけ医となっている。定期受診はご家族対応であるが緊急時は職員が付き添う等柔軟な対応を取っている。かかりつけ医によっては往診も行っている。夜間を含む急変時の連絡体制をかかりつけ医と相談し決めている。また協力歯科医による週1回の往診も行われている	利用前のかかりつけ医を継続している。現在、2名の利用者のかかりつけ医による往診も行われている。緊急時は職員が付き添うが受診前後は必ず家族に電話で連絡、報告している。看護師は週2日勤務しているが、不在の時は隣接デイサービスの看護師が必要時に対応している。訪問時、歯科医師の往診治療が行われていた。利用者の状況に応じた適切な医療が受けられるよう、かかりつけ医、協力医療機関との連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置し対応している他、隣接している事業所の看護師との連携も取り支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関に情報を提供している。本人、家族、医療機関と回復状況の連絡を密にとり早期に退院出来るよう努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族様の希望を聞き、かかりつけ医との相談を十分に行い方針を決めるようにしている。また重度化した場合における指針の同意を文書にて頂いている	契約時に重度化した場合における対応指針を説明している。利用中、状態に変化が生じ本人、家族が終末期を希望した場合には家族、医師、職員と話し合った上、看取りに関する同意書を取り交わしている。計画作成担当者・看護・介護・医師らが協働しながら随時介護計画を作成し、全職員が方針を共有し本人・家族が安心と悔いのない最期を迎えられるよう取り組む方針である。病気で必要性に迫られ医療機関に移られた利用者はいるが開設から1年余という期間でもあり看取りの実践はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルをもとに研修を行っている。また実際に起きた事故の対応確認や計画作成時に急変や事故が予測される場合は全体会議等で話し合い勉強している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	朝礼、夜礼時に火災時口頭訓練を行っている。6月、11月は隣接の事業所とともに防災訓練を行い消防署の指導も受けている	年2回消防署の指導の下、防災訓練を実施している。内1回は隣接のデイサービスと合同で行い、利用者は職員の誘導で避難訓練に参加している。職員は法人の危機管理担当者から通報の仕方や消火器の取り扱い方法についても指導を受けている。次回の訓練では運営推進会議のメンバーに訓練の様子を見学して頂き、助言等を頂きたいと会議で相談している。災害時における自らの行動を朝礼、夜礼時に模擬訓練している。飲料水や食料など、3日分の備蓄もされている。	

グループホーム風薫

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に人生の先輩である事を職員全員が意識し敬意を払っている。ご本人で行う事が困難な時にさりげないケアをし、自己決定が出来るような言葉掛けに心がけている	一人ひとりが尊重され、日々の生活の中でプライバシーが保たれ、穏やかな暮らしが送れるように職員は日々取り組んでいる。利用者の呼び方は本人の希望する苗字又は名前に「様」をつけているのでそれに続く言葉も丁寧なものとなっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の状態に合わせ分かりやすく選びやすい言葉掛けを行っている。意思表示が困難な方は表情や行動からその意思を汲み取り理解するようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日のご利用者の状態や気分によって個別の外出や希望メニューの提供等を行っている。ご利用者のペースを大切に気持ち尊重しながらその人らしい生活が出来るよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時は衣類を選べるよう言葉をかけている。訪問理美容を活用しご本人の要望に沿えるようにしている。またお化粧品や装飾など今まで行ってきた事が継続して行え、おしゃれが楽しめるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節やその日の天候、ご利用者の希望でメニューを決め、食事作り、盛付、片付け等一緒に行っている。職員とご利用者が同じテーブルで会話を楽しみながら食事する時間を大切にしている	食事に関する一連の作業に対し、職員は一人ひとりの持てる力を把握している。利用者の力量を活かしながら作業を一緒に行っている。調理の下ごしらえ、味付け、盛り付け、配膳、片付けや食器洗いなど和やかな雰囲気の中で行われている。食事は静かな音楽の流れる中、各利用者のペースでゆったりとした時間がとられており食後はおしゃべりを楽しんでいた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は栄養バランスに気をつけ、個別の嗜好や食事形態に合わせるようにしている。食事量は確認し把握出来ている。水分はこまめに提供し摂取が困難な方はゼリーを召し上がっていただき1日の水分量を確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後お一人ずつ歯磨きの声掛けをし行っている。毎週歯科往診があり連携を取りながら口腔状態の把握に努めている。また義歯の方は洗浄剤を使用している		

グループホーム風薫

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し排泄のサイクルを把握している。本人の排泄サインを見逃さず自尊心に配慮したケアを心掛けている	利用者の状況に応じ、プライバシーに配慮しながら排泄支援が行われている。排泄用品の使用は利用者ごと様々であるが一人ひとりの排泄パターンや仕草などを職員は詳細に把握しており、時間やタイミングを察知しながらトイレでの排泄や排泄の自立に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表でサイクルを確認し便秘の方には水分を多く取って頂けるよう促している。また繊維の多い食材や適度な運動を行い自然排便に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ある程度の時間は決まっているが本人の希望を確認して入浴している。その方の今までの習慣に合わせ、楽しんで頂けるよう支援している	お風呂は毎日準備しているが一人ひとりの入浴日は概ね決まっている。一日の入浴は3～4名である。入浴日には本人の入りたい時に入浴できるよう配慮している。季節で菖蒲湯、柚子湯、リンゴ湯など、香りを楽しんでもらうこともある。日帰り温泉や近くにある足湯にも出かけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの生活習慣に沿って休息を促している。また体調や本人の希望に応じて支援している。日中の活動にも気を配っているが眠れない方には一緒に会話をしたり足浴等を行い安眠出来るようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬のファイルを作成し目的や副作用、用法等を理解している。処方に変更があった場合は個人記録や業務日誌に記載し申し送り等で把握している。状態変化の観察に努め、その変化は医師に伝えている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自宅にいた頃の趣味が継続できるように支援している。出来る事、希望する事の中から役割を持ち張り合いのある生活となるようにしている。また季節の行事や外出等ご利用者の意見を取り入れながら行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩に出かけ季節を感じて頂けるようにしている。個別ケアを行い本人の希望で自宅へお連れしたり、買い物で好きなものを購入したり、外食が楽しめるように支援している	日常的には気分転換を兼ねて事業所周辺を散歩し季節の移り変わりを楽しんでいる。行事外出としてお花見、イチゴ狩り、スポーツ観戦、ドライブなどに出かけている。家族や介護相談専門員等が参加することもある。利用者から希望があり職員の勤務体制に余裕があれば個別外出にも積極的に取り組んでおり、担当職員と外出し、一日を一緒に過ごすこともある。	

グループホーム風薫

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が希望する場合は、ご家族の理解と協力を得て所持している方もいる。買い物へ出かけた際は支払い時に財布を渡しご自分で支払って頂けるようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて電話をかけたり取り次いだりしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生け花や観葉植物等季節の花を飾り四季を感じて頂けるようにしている。また家庭的な雰囲気中で居心地の良い場所となるよう努めている	玄関を入ると利用者の手による正面の生け花に目が引かれ、また壁の一輪挿しにもなでしこが上品に飾られていた。高い天井と大きなガラス窓の居間・食堂がワンフロアとなっており開放感がある。ガラス窓の外は一面クローバーが敷き詰められた公園で、その向うに諏訪湖が見える。壁には利用者の作品掲示コーナーがあり大型テレビの前にはドットリとしたソファがある。利用者は明るく広々とした食堂のテーブルを囲み、なにやら楽しくおしゃべりしていた。時々職員も加わりさらに笑い声が大きくなっていった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者が、ホール、台所等でそれぞれ居心地の良い場所があり、その場所で落ち着いて過ごせるようにしている。ホールにソファを置き気の合った方達でくつろげるよう配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具、調度品を自由に持ち込み、以前と変わらない環境作りに努めている。絵や写真を飾っている方もいる	花の名前がついた居室は窓に障子がはめられており落ち着いた雰囲気が感じられる。衣類などの入った数個の衣装ケースなどが大きな押入れの中に全て収納され、整理整頓がされている。仏壇のある居室もある。お気に入りの写真や人形などを本人が自由に飾ったり、沢山の洋服をベッドの横に吊るすなど、本人が気楽に安心して過ごせるような居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方の、できること、わかることを理解し不安や混乱が生じないよう努めている。また継続していけるよう安全に配慮しながら自立した生活を支援している		